

July 12, 2026

誠実・御霊の実

ホセア 2:19-23

2:19 わたしは永遠に、あなたと契りを結ぶ。義とさばきと、恵みとあわれみをもって、あなたと契りを結ぶ。

2:20 真実をもって、あなたと契りを結ぶ。このとき、あなたは主を知る。

2:21 その日、わたしは応えて言う。——主のことば——わたしは天に応え、天は地に応え、

2:22 地は、穀物と新しいぶどう酒と油に応え、それらはイズレエルに応える。

2:23 わたしは、わたしのために地に彼女を蒔き、あわれまれない者をあわれむ。わたしは、わたしの民ではない者に『あなたはわたしの民』と言い、彼は『あなたは私の神』と応える。」

きょうの主題は「御霊の実」の一つ「誠実」についてですが、神の「誠実」、「真実」がどんなものかに絞って、「ホセア書」からお話しします。

一、人間の不誠実

「ホセア書」を書いたホセアは、紀元前 760 年ころから北王国で預言した人です。預言者たちは誰も、その時代にもまれ、苦しめられながら神の言葉を伝えました。ホセアの場合も例外ではなく、彼は結婚や家庭のことで大きな苦しみを経験しました。しかし、神は彼の体験を用いられ、それを通して彼に神の言葉を授けられました。

ホセアの妻ゴメルはホセアとの間に長男イズレエルを産んだあと、夫から離れ、他の男性との間に、女の子と男の子を産みました。けれども、法的にはホセアが父親でしたから、女の子

には「ロ・ルハマ」、男の子には「ロ・アンミ」と名付けました。「ロ・ルハマ」は「あわれまれることがない者」 “No Mercy” という意味です。女の子の名前で “Mercy” はけっこう人気のある名前なのですが、それを打ち消した “No Mercy” という名をつけたのと同じことになります。また、「ロ・アンミ」は「わたしの民でない者」という意味です。北王国イスラエルは神から遠く離れてはいても、依然として神の民でしたが、ホセアは子どもに「非国民」または「異邦人」という意味の名前を付けたのです。

ホセアがそんな名前をつけたのは、墮落した妻と、彼女が産んだ子どもを憎く思ったからではありません。そうした名を付けるよう命じたのは、じつは、神でした。神は、罪のために壊されたホセアの家庭を用いて罪の恐ろしさを伝えようとされたのです。

最初の夫婦アダムとエバが誘惑を受けたように、罪はいつでも夫婦の間を引き裂き、家庭を壊そうと働きかけます。家庭は天国にいちばん近いところと言われますが、同時にいちばん罪に狙われやすいところです。ですから、私たちは、何よりも、常に家庭が守られるよう熱心に祈る必要があります。

神は、北王国イスラエルが南王国から離れていったのちも、彼らをあわれんでくださいました。それは、神が彼らをご自分の民として選んでくださった、その選びのゆえでした。また、神は、ご自分の民を「妻」のように愛してくださいました。ところが、イスラエルは、その愛に逆らって、「バアル」を「主」、「夫」と呼んで、偶像礼拝にふけたのです。

そのためイスラエルは絶えず外国から攻撃を受け、戦争が止みませんでした。政治は腐敗し、社会に不正がはびこり、不道

徳が満ちたのです。神が、ゴメルが産んだ女の子に「ロ・ルハマ」（あわれまれることのない者）と名付けるよう命じたのは、北王国イスラエルが神に逆らい続けるなら、もはや神のあわれみは取り除かれるとの警告を与えるためでした。男の子に「ロ・アンミ」（わたしの民でない者）と名付けるように命じたのは、罪を犯し続けるならイスラエルは神の選びの民でなくなってしまうとのメッセージを伝えさせるためだったのです。

二、神の誠実

ホセアにとって、妻が娼婦になり、自分の子ではない子を産んだことは、恥ずかしいことであり、隠しておきたいことだったに違いありません。しかし、神は、そのような苦しみを抱えているホセアを用いて、北王国イスラエルに語りかけられました。それは、ホセアの家庭に起こった悲惨な出来事は、北王国イスラエルの罪の縮図だったからです。

けれども、神はホセアの家庭を回復させ、それによって、イスラエルに対するご自分の愛の真実を教えようとされました。神はホセアに命じました。「行って、姦淫の女と姦淫の子らを引き取れ。」（ホセア 1:2）。ホセアは再びゴメルを妻として迎え、その子らを引き取りました。ホセアの結婚と家庭は、彼の誠実な愛によって回復しました。結婚は相互のものですから、ゴメルもまた罪を悔い改め、心をきよめられて、夫への愛を回復したことでしょう。神は、この結婚と家庭の回復によって、イスラエルもまた、神との関係を回復されると約束されました。

神は言われました。「わたしは永遠に、あなたと契りを結ぶ。義とさばきと、恵みとあわれみをもって、あなたと契りを

結ぶ。真実をもって、あなたと契りを結ぶ。」（ホセア 2:19-20）神は、本来の「夫」である神を捨て、偶像に走っていったイスラエルを赦し、受け入れ、イスラエルを造り変え、きよめて、ご自分の「妻」として迎えると誓われました。永遠に、真実をもって「契を結ぶ」と言われたのです。この神の真実な愛によって、「ロ・ルハマ」（あわれまれることのない者）となった人々は、再び神のあわれみを受ける者となり、「ロ・アンミ」（わたしの民でない者）と呼ばれた人々も神の民とされるのです。この神の言葉を聞いたホセアは、子どもたちの名前を「ロ・ルハマ」から「ルハマ」へ、「ロ・アンミ」から「アンミ」へと変えたに違いありません。

そして、この神の愛と真実は、イスラエルだけではなく、私たちにも届けられています。神は神から遠く離れていた私たちをも、イエス・キリストによって、あわれみの対象としてくださいました。「異邦人」であった私たちをも神の民としてくださったのです。「わたしは、わたしの民ではない者に『あなたはわたしの民』と言い、彼は『あなたは私の神』と応える。」

（ホセア 2:23）この言葉は、ローマ人への手紙にも、ペテロの第一の手紙にも引用されています。使徒パウロも、使徒ペテロもともに、ホセアが預言した救いと回復はイエス・キリストによって成就していると教えています。

この神の変わらない真実な愛を受け入れるとき、かつては、神にも人にも「不誠実」でしかなかった私たちも御霊の実としての「誠実」を持つ者になれます。それによってまずは神との間に誠実な関係築き、夫婦の間に誠実な関係を築き、家庭を守ることができるようになります。それによって、私たちもまた、社会を守り、神の愛を人々に示す者となれるのです。

(祈り)

父なる神さま、あなたは、イエス・キリストによって、私たちと愛の契約を結んでくださり、その愛を貫き通してくださいました。「あなたはわたしの民」と語ってくださるあなたに、「あなたは私の神」と言ってお応えます。常に、あなたの真実な愛を受け、この世にあっても誠実を養うことができますよう、私たちを助け、導いてください。イエス・キリストによって祈ります。